

米海軍佐世保基地内大学 について

1. 米海軍佐世保基地内大学とは . . . 1
2. 米海軍佐世保基地内大学で学べること . . . 2
3. ブリッジ・プログラム（入学準備コース）について . . . 5
4. 授業の様子や実施方法は？ . . . 6
5. 費用や支払い方法は？ . . . 9
6. 応募条件について . . . 11
7. 大学内での進学や他大学への編入について . . . 16

佐世保市役所文化国際課

2022年4月(更新)

1.米海軍佐世保基地内大学とは

米軍では軍人として勤務をしている間に高等教育を受ける機会があり、軍ごとに高等教育プログラム(海軍の場合は「ネイビー・カレッジ・プログラム(Navy College Program)」)を設け、様々なサポートをしています。

「米海軍佐世保基地内大学」とは1つの大学の名称ではなく、この高等教育プログラムを指し、アメリカの多くの大学が協力校として参加をしており、勤務地がアメリカ本国から離れた場所でも本国と同等の教育を受ける機会が提供されています。

現在、米海軍佐世保基地ではメリーランド大学(University of Maryland Global Campus - 略称は『UMGC』)が日本人就学生を受け入れています。

一般的な大学とは違い、基地の敷地内に大学としての独立したキャンパスがあるのではなく、基地の施設のコミュニティ・エデュケーション・センター内に「ネイビー・カレッジ・プログラム」とメリーランド大学の佐世保事務所、講座室、テストセンターなどがあります。

※取得するのはアメリカの大学の学位で、日本の大学の学位や資格などは取得できません。

※授業以外の課外活動(クラブ活動やサークル活動など)はありません。

※米軍関係者のための就学支援(奨学金制度など)はありますが、日本人は対象に含まれません。

【重要】

アメリカの教育理念は「自らが学ぶ」ことを重視し、18歳以上は成熟した個人として扱われ、大学は学生が「主体的」に学ぶ場です。

アメリカの大学で学ぶということは、大学の授業で知識を得るだけではなく、大学を通してアメリカの社会に触れ、教室やそれ以外の場でも自分で考え、主体的に行動するための「思考力」「判断力」「実行力」などを養うことが含まれています。

そのため、ネイビー・カレッジ・プログラムを通してアメリカの大学に就学する学生にもアメリカの大学生として「自己責任の下に、個人で選択の判断が下せる大人」であることが期待されており、人任せにするのではなく、それぞれが独立した個人として、自ら行動する姿勢が求められます。

米海軍佐世保基地内大学で学ぶ人たち

主な就学生は米軍の軍人とその家族の方ですが、それ以外には米軍基地で働く民間人(軍属)や、軍を退役後に日本に居住している方々も学んでいます。

これまでに就学した日本人は、高校や大学を卒業した方や大学に在学中の方、海外での留学経験者、職業をお持ちの方や、専業主婦の方など様々です。

米海軍佐世保基地内大学への長崎県民の受入れ

「ネイビー・カレッジ・プログラム」とは、本来、米軍の軍人とその家族を支援するためのプログラムで、これに該当しない方の参加を認めていません。

ただし、日本においては、1990年、在日米軍と日本国外務省の合意のもとに日本人の就学が認められることとなり、日本人が就学するためのガイドラインが作成されました。

このガイドラインでは、「日本国内の米軍基地が所在する地域の地方公共団体（自治体）は日本人の就学希望者募集の窓口として委員会を設置し、この委員会が就学希望者募集と応募（書類）の受付と書類審査、および就学候補者の選考（面接）を行い、選考の結果を基地内大学へ就学候補者として推薦し、基地内大学は委員会から推薦された者にこの「高等教育プログラム」への参加の承認を与えること」とされています。

『米海軍佐世保基地内大学』では1991年4月に在日米軍側と長崎県・佐世保市が協定を締結し、長崎県民の就学が認められることとなり、「米海軍佐世保基地内大学就学実行委員会」を設置して就学希望者の募集を行っています。

注：佐世保の場合、「米海軍佐世保基地内大学就学実行委員会」の推薦を受けていない日本人はネイビー・カレッジ・プログラムに申し込むことができません。

2. 米海軍佐世保基地内大学で学べること

現在、米海軍佐世保基地ではメリーランド大学が日本人就学生を受け入れています。

メリーランド大学（UNIVERSITY OF MARYLAND GLOBAL CAMPUS - 略称『UMGC』）

同大学アジア地区のホームページアドレス：<https://asia.umgc.edu/>（英語）

- アメリカ合衆国メリーランド州の州立大学のひとつで、同州アデルファイ（ADELPHI）に本部があり、キャンパスを持たずに通信制に特化した大学です。
- アメリカ以外にアジア地区（本部・横田）とヨーロッパ地区（本部・ドイツ）に拠点がありますが、この2つの地区の就学対象は米軍関係者のみで、一般の方の受け入れはしていません。（佐世保基地はアジア地区の所属です。）
- アジア地区では次ページに記した課程に就学して学位を取得することができます。

【学位等一覧】

課程	学部 / Undergraduate Program		大学院 / Graduate Program
学位 (Degree)	準学士 (短期大学に相当) Associate's Degree	学士 (4年制大学に相当) Bachelor's Degree	修士 (大学院修士課程に相当) Master's Degree
	Associate of Arts (文系)	Bachelor of Arts (文系) Bachelor of Science (理系)	MBA – Master of Business Administration
学位取得に必要な 単位数 (Credit)	60単位	120単位	36単位
学期	5学期制 (1学期8週間)	5学期制 (1学期8週間)	4学期制 (1学期11週間)
最短就学期間 ^①	2年	4年	1年半
在学期間の制限	規定なし	規定なし	規定なし ^②

※アメリカの大学の多くは1年を2学期「セメスター (Semester)」や4学期「クォーター (Quarter)」に分け、それぞれの学期で成績の評価がつく「単位制」です。基地内大学では、軍人としての勤務を続けながら大学に就学する人たちが短期間で集中的に学習できるように、学部課程 (Undergraduate Program) は同じ単位制でも1学期の長さが短い5学期制を取り入れています。

- ① 最短就業期間は学部課程で每学期2つ以上の講座を、大学院課程は每学期休まずに受講した場合です。
 ② 在学期間に決まりはないため、学位取得までに年数をかけて就学できますが、Graduate ProgramのMaster's Degreeはコース修了までの期限 (5年) の規定があり、この期限内に修了しなければ、全部の講座を最初から受講することになります。

- 学部課程には一般教養科目に該当する「General Education Requirements」があります。専攻の専門分野以外で大学が指定する多様な分野から受講する講座を選び、一定数の単位 (準学士では35単位、学士では41単位) の取得が必要です。
- 学部課程はいくつかの修了証プログラム (Certificate Program-18単位) があります。
- 大学院課程の専攻は「MBA – Master of Business Administration」だけです。
- 学部課程の専攻学科の概要は次のとおりです

準学士 (60単位以上)	
文系準学士 – Associate of Arts (A.A.)	
専攻	General Curriculum (一般教養)、Accounting (会計学)、Business and Management (経営学)、Computer Studies (コンピュータ学)、Management Studies (マネジメント学)、Mathematics (数学)、Psychology (心理学) 等 Foreign Language Area Studies - Japanese (外国語-日本語 = 日本人は履修不可) Foreign Language Area Studies - Korean (外国語 - 韓国語)

学士 (120単位以上)	
文系学士 - Bachelor of Arts (B. A.)	
専攻	Communication Studies (コミュニケーション学)、East Asian Studies (東アジア学)、General Studies (一般教養)、English (英語学)、History (歴史学)、Humanities (人文科学) 等
理系学士 - Bachelor of Science (B. S.)	
専攻	Accounting (会計学)、Business Administration (経営管理学)、Computer Science (コンピュータ学)、Criminal Justice (刑事司法学)、Homeland Security (国土安全保障)、Human Resource Management (人材管理学)、Management Studies (経営学)、Marketing (マーケティング学)、Political Science (政治学)、Psychology (心理学)、Social Science (社会科学)、Computer Networks and Cybersecurity (コンピュータネットワークおよびサイバー・セキュリティ)、Cybersecurity Management and Policy (サイバー・セキュリティ管理)、Information Systems Management (情報システム管理学) 等

- 各課程の専攻学科の詳細は下記のリンク先でご確認ください。

学部課程	
準学士	https://asia.umgc.edu/academic-programs/associates-degrees/index.cfm
学士	https://asia.umgc.edu/academic-programs/bachelors-degrees/index.cfm
修了証プログラム	https://asia.umgc.edu/academic-programs/undergraduate-certificates/index.cfm
大学院課程	
修士	https://asia.umgc.edu/academic-programs/masters-degrees/index.cfm

⑨日本人は下記の専攻を選択できません。

- 準学士の「Foreign Language Area Studies Curriculum」の「Japanese Courses(日本語科)」
- 修士の「Master of Science in Transformational Leadership」

※学士の「East Asian Studies」は専攻可能ですが、選択できる「Language」の講座は中国語です。

⑩学部課程ではアジア地区にない専攻でも通信制で履修可能なものがあります。詳細は、アメリカ本部地区のホームページ(<https://www.umgc.edu/academic-programs/bachelors-degrees/index.cfm>)でご確認ください。

⑪学士には文系理系を問わず、上記の専攻以外に「副専攻」があります。

3.ブリッジ・プログラム(入学準備コース)について

母国語が英語以外の方が、アメリカの大学教育を受ける上で必要なアカデミックな英語力(英語での読解、作文、文法、コミュニケーション力など)を身に付ける目的で構成されたESL(English as a Second Language)のプログラムです。

【講座一覧】

	学期	講座番号	講座名	単位数
必須	第1学期	UMEI 030	Interpersonal Communication Skills 対人コミュニケーションスキル	3 ^②
	第2学期	UMEI 020	Integrated Skills for College Literacy カレッジリテラシーの総合スキル	3 ^②
	第3学期	EDCP 102	Integrated Skills for Academic Success 学術的成功のための総合スキル	3
	第4学期	WRTG 111X	Academic Writing I 学術的ライティング I	3
	第5学期	WRTG 112X	Academic Writing II 学術的ライティング II	3
オプション	第6学期	SPCH 100X	Foundations of Speech Communication スピーチコミュニケーションの基礎	3

注意: このプログラムの講座は最少実施人数(9名)に定めがあり、最少実施人数に満たなければ開講されません。

授業の形式は通学制と通信制の2種類があり、どちらの形式でも決められた曜日と時間に実施される授業に参加します。

【ブリッジ・プログラムの通信制での開講について】

本来、このプログラムは「通学制」で実施されていましたが、2020年春より新型コロナウイルス感染症防止の対応のためZoomアプリを使用した「通信制」で実施されています。

2022年度も「通学制」で実施できなければ「通信制」でプログラムが開始される可能性がありますし、その場合でも途中で「通学制」に戻る可能性もあります。

また、コロナ感染症防止対応に関係なくZoomアプリを使用した「通信制」でも開講予定で、「通学制」と「通信制」の2本立ての場合、プログラムに開始前にどちらの授業の形式で受講するかを選択し、プログラム開始後は個人の都合で受講方法は変更できません。

- 第1から第5学期までの必須講座と第6学期のオプションの講座の構成です。
- 必須の第1から第5学期までを落第せずに“C”以上の成績評価で修了するとプログラムの修了証(Certificate)が授与され、英語の資格やオプションの第6学期の受講の有無にかかわらず、同大学の学部課程(準学士・学士)に進学できます。(ただし、大学院課程へ進学する場合は英語の資格証明書が必要です。)
- 受講する順番を入れ替えることや途中の講座を飛ばして先に進むことはできません。

- 1年間で必須の5講座を連続して受講できなかった場合でも、最初からやり直す必要はなく、翌年以降に残りの講座を受講して“C”以上の評価で修了すれば学部課程(準学士・学士)に進めます。
- 受講申し込みと受講料の支払いは1講座(1学期)ずつです。
- 1講座当たりの授業料は正規入学コースの3単位の講座と同額です。(教科書代込みの金額です。)
- 1講座(1学期)の期間は8週間で、授業は週2回の合計16回です。
- 授業開始は夕方以降(19時前後)に始まり、1回の授業は途中の休憩込みで約3時間の予定です。
- 無断欠席は成績評価の減点対象になるので、欠席する時は事前に担当講師に連絡してください。
- 既に他の大学で準学士や学士の学位を取得している人やこのプログラム履修中にほかの大学で準学士や学士の学位を取得した人はプログラム修了後に後述(17ページ)の「Second Associate’s Degree - 第2準学士号 / Second Bachelor’s Degree - 第2学士号」の制度が利用できます。
- プログラムの途中で正規入学の条件を満たす英語の資格を取得した場合は、その時点で正規入学コースへの編入申請が可能で、編入後は残りの講座に受講したいものがあれば受講ができます。
- 正規入学コースの就学生であれば、受講したい講座だけを選んで受講することが可能です。

⑨第1学期と第2学期の2つの講座の単位は学部課程に進んでも単位加算の対象にならないため、第3学期から第5学期までの3講座で「9単位」、第6学期のオプションの講座まで受講するとプラス「3単位」が正規入学コースに進んだ時の学位取得の際の加算対象です。

【重要】プログラムの開始時期や講座が実施される時期や授業のスケジュールが変更や延期される場合があります。

4. 授業の様子や実施方法は？

アメリカの大学ですので、授業は全て英語で行われています。

米軍人たちは短期間で勤務地が変わることがあるため、専攻の途中で転勤をしても、継続して学習が続けられるように通信制の履修が基本となっています。従って、日本の学校に通う学生や昼間働く社会人、佐世保までの通学が難しい人などでも就学することが可能です。

正規入学コースの大学院課程(修士)は全講座が通信制ですが、学部課程の授業は大きく2種類に分けられます。

① インターネット利用で在宅学習の通信制(Distance Learning)

② 基地内のコミュニティー・エデュケーション・センターに通う通学制(On-Site)

通信制の授業はインターネットを介した在宅での学習で、メリーランド大学が提供する Learning Experience Online(略称=LEO) Classroom を使用します。

このシステムは通信制だけでなく、通学制でも授業に使用する資料や課題の提出などに利用します。このシステムの説明は下記のリンク先の動画でご確認ください。

<https://asia.umgc.edu/students/learning-resources/online-learning/leo-videos.cfm>

①通信制と②通学制で実施されているそれぞれの授業の形式は下記のとおりです。

①通信制 (Distance Learning)
Online - LEO Classroom を用いて学習する通信制の講座。
Asia Virtual Class - Zoom アプリを用い、決められた日時に自宅から授業に参加。 授業の資料の取得や課題提出などは LEO Classroom 内で行う。
②通学制 (On-Site) ※コロナウィルス感染症対策のため通学制の講座が受講できない場合があります。
Face to Face - 週に1回または2回は教室に通う対面式。 授業の資料や課題の提出に LEO Classroom を用いる。
Hybrid - 週1回、教室で対面式の授業は行われるが、課題の提出や同級生とのディスカッションなどは LEO Classroom 内に投稿する通学制と通信制を融合させた形式。
Hybrid Live-stream -週に1回か2回のペースで教室に通う。1人の講師が離れた2か所以上の教室を双方向のライブストリーミングで繋いで同時に授業を行う。 ※講師は1か所の教室で毎回授業を行い、別の教室に通う学生は同時に教室のモニターに映し出される中継画面を通して授業に参加し、講師への質問やお互いの教室の生徒とのディスカッションが可能。
【参考】 コロナ感染症防止のために通学制の代わりとして一時的に実施されている通信制
Temporary Virtual (due to COVID-19) -コロナ過のため通学はせずに、Face to Face や Hybrid の授業の決められた日時に Zoom アプリを用いて、自宅から授業に参加。授業の資料の取得や課題提出などは LEO Classroom 内で行う。

④上記の授業の形式は都合により変更になる場合があります。

※佐世保基地で実施される通学制の講座は、日本国内のほかの米軍基地で開講されている授業を佐世保の教室に配信して実施する Hybrid または Hybrid Live - Stream の授業がほとんどです。

通学制の講座の時間割は米軍の人たちの勤務時間に合わせてあるため、授業開始の時間は平日の夜の時間帯、1回約3時間の授業が週1～2回のペースで実施されています。

通学などでの基地内への入場について

米軍基地の敷地内にある大学の事務所などに行く時は、事前に大学の担当者を通して同基地警備部から入場許可を取る必要があります。(基地に入場してから退場までエスコート役の大学関係者の同行が必要。)

ただし「通学制」の講座を受講する人は例外として基地に入場するための通学用のパス(入場許可証)を申請します。申請者は最初にパスのスポンサーである大学から通学用パスを申請するための許可を取り、申請に必要な書類を揃えて警備部へ提出し、在日米軍の審査を受けます。(この審査に通らなければパスは発行されません。)

※通学用のパスを通学以外の目的に使用することは規則違反に当たり、違反した場合、就学は取り消しとなります。

※通学用のパスを持っていても同基地内での行動には制限があります。米軍や、パスのスポンサーである大学から立ち入りの許可が出ていない地域や施設への立ち入りは、禁止です。パスの取扱いを含め、米軍の規則に違反した場合も就学は取り消されます。

【パスについて】

米軍発行のパスはアメリカ政府が所有権を有しており、就学生には通学期間に限り『貸し出し（貸与）』されます。貸与されているパスは「パスの有効期限が切れた時」や「通学の必要がなくなった時」は有効期限が残っていたとしても直ちに米軍に返却してください。（返却義務を怠ることは規則違反です。）

講座について（登録や取り消しなど）

受講する講座は1学期ごとに登録の手続きをしますが、開講予定の講座のスケジュールは次の学期が始まる約1カ月前に発表されますので、受講したい講座があれば、講座開始前の登録受付期間中に手続きをします。（1年分や半年分をまとめて登録できません。）

※登録手続きはインターネットを介したオンライン登録で、入学手続きの際に作成する自分の学生アカウント(MyUMGC)を使い手続きをします。

※通学制の講座には1クラス内の日本人学生の割合が25%を超えてはならないという規定がありますが、通信制の講座と通学制でも英語が母国語ではない人向けのブリッジ・プログラムの講座はこの規定の適用外です。

大学が定めている期間内なら登録講座の取り消しが可能ですが、授業料の返金率は取り消す時期により異なります。（期限を過ぎてからの取り消しでは返金されません。）

「講座の登録取り消し(Withdraw)」や「返金(Refund)」には規則(Policy)があるので、手続き前にこれらの規則について大学のホームページで確認し、不明な点は大学の担当者にお問い合わせください。

講座の登録取り消しと返金について:

<https://www.asia.umgc.edu/services/course-withdrawal-refunds>

休学と復学について

在学年数に限りがないため、専攻課程の途中で休学することが可能です。

学部課程では休学の届け出は不要ですが、大学院課程は修了までの期間が5年と決められており、それを超えた場合は最初からやり直すことになります。

ブリッジ・プログラムは講座の受講の順番が決まっているので、途中で休学を取ると次に受講すべき講座が開講されるまでは、プログラムに復学できません。

2年以上休学した場合、復学時に再登録手続きが必要です(再登録料は不要です。)この場合、まずは大学の担当者に連絡を取り、再登録の手続きと過去の就学状況を確認した上で次に受講する講座を登録してください。

※長期休学中に専攻が廃止されている場合があるため、講座を登録する前に過去の就学状況を確認してください。大学に問い合わせる時は、確認作業をスムーズにするため、氏名以外に学生番号や就学していた時期などを大学の担当者にお知らせください。

※休学中に大学の担当者が変わり、連絡がとれない時は当就学実行委員会事務局までお問い合わせください。

インターネット環境について

通信制の講座は主にインターネットを介して受講します。そのほか、受講講座の登録手続きや授業料の支払いなど大学の各種手続き、教科書や授業の教材の取得や課題の提出などもインターネットを介して行うため、自宅にインターネット環境が整備されていることが望ましく、大学の授業で用いるGoogleドキュメントや、PDF、Word等のファイルが取り扱える端末が必要です。

大学や担当講師との連絡などは電子メールで行うため、電子メールのアドレスも必要ですが、携帯電話会社提供のメールアドレスでは受信できない形式の添付ファイルもあるため、パソコンで利用可能なメールアドレス(プロバイダー提供やフリーのものなど)をご準備ください。

注：大学から届いたメールに目を通さずに、後日、トラブルに繋がるケースが見受けられます。大学に登録しているメールアドレスは大学からのメールが受信できるようにメールとセキュリティのアプリの設定を変更して、定期的にメールをチェックすることを心掛け、届いたメールには必ず目を通し、必要なら返信をし、不明な点は必ず大学の担当者に問い合わせをしてください。

5.費用や支払い方法は？

入学金について

登録料(Application Fee)として入学手続きをする時に支払います。

	ブリッジ・プログラム/学部課程共通	大学院課程
登録料	50ドル	50ドル

(2022年3月現在)

※ブリッジ・プログラム終了後に学部課程に進む場合は、登録料を再度支払う必要はありません。

※学部課程と大学院課程は分かれているため、ブリッジ・プログラムもしくは学部課程の修了後やその途中で大学院課程にコースを変更する場合は、改めて登録料を支払う必要があります。

授業料について

下記の金額は2021年度(2021年8月～2022年7月)の授業料で、1講座当たりの授業料は受講する講座の単位数に1単位当たりの授業料を掛けて算定します。(教科書代が含まれます。)

	1講座の授業料	参考-1単位当たりの授業料	学位取得に必要な単位数
ブリッジ・プログラム	735ドル	-	※学位授与なし
学部課程 (準学士、学士)	735ドル (3単位の講座の場合)	(245ドル)	準学士 60単位以上 学士 120単位以上
大学院課程(修士)	1,974ドル (6単位の講座の場合)	(329ドル)	修士 36単位以上

(2022年3月現在)

大学への支払いは1学期ずつで、講座の登録手続きをした後、受講開始前に前払いで支払います。(年払い・半年払いはありません。)

学位取得(卒業)までに必要な授業料は、それぞれの専攻課程で必要な総単位数に1単位当たりの授業料を掛けて算出できますが、年度ごとにある授業料の変更や為替相場の変動の影響で就学前に見積もりをした金額と実際にかかる金額とは異なる場合があります。

※メリーランド大学にネイビー・カレッジ・プログラムを通して就学した場合、日本人にも米軍関係者向けの授業料と同じ金額が適用されているため、通信制大学として一般的な就学をする場合とでは金額が異なります。

※アメリカでは新しい教育年度が8月に始まり、その時期に合わせて授業料等の見直しが行われるため、2022年度以降の授業料は上記の金額から変更されている場合があります。

その他の費用について

米海軍佐世保基地の講座室を利用する通学制の講座を受講する場合、授業料とは別に、米海軍佐世保基地に「施設管理費(NON SOFA FEE=1単位あたり5ドル)」を支払います。施設使用料は1学期で受講する通学制の講座の単位数に1単位当たりの金額(5ドル)をかけて算出します。

※施設管理費は大学の担当者を通して米海軍佐世保基地に支払います。

支払い方法について

授業料の支払いはアメリカドル建てで、支払い方法はクレジットカードのみです。米海軍佐世保基地に支払う施設管理費(NON SOFA FEE)については現金(アメリカドル)で支払います。

利用可能な クレジットカード	アメリカン・エクスプレス-アメックス (AMERICAN EXPRESS)
	マスター・カード (MASTERCARD)
	ビザ (VISA)
	ディスカバー・カード (DISCOVER CARD)

※ディスカバー・カードは日本国内で取得出来ませんが、それ以外のカードは日本国内で発行された提携カードでも支払えます。

※支払い時の為替レートにより米ドルでは同額でも日本円に換算した金額はその都度異なります。

※大学への支払いが遅れると、授業が受けられなくなるので、授業開始日までには支払い手続きを済ませてください。

⑨ - ご自身名義のクレジットカードを所持していない場合、ご家族の同意があれば、家族名義のカードでも支払いが可能な場合がありますので、ご家族の同意を得た上で、大学の担当者に支払い手続きについてご相談ください。

6.応募条件について

次の3つのいずれの条件も満たす方が応募できます。

- ①18歳以上で日本国籍を有する方
- ②長崎県内に住民票の住所がある方
- ③希望のコースや課程で必要とされる下記の学力や英語の資格の条件を満たしている方

課程	入学準備 / Bridge Program	学部 / Undergraduate Program	大学院 / Graduate Program
学歴	高等学校卒業 または同等の学力がある方		4年制大学卒業 (Bachelor Degree 取得者)
英語の資格 (いずれか1つに該当)	資格取得から5年以内 ● TOEFL iBT 45点以上 ● IELTS 4.0点以上 ● 英検 2級以上 ● TOEFL ITP 450点以上 ● Duolingo English Test 75点以上 ● TOEIC 2つのテストの合計スコア <u>Listening & Reading Test</u> 各 275点以上 <u>Speaking & Writing Test</u> 各 120点以上	資格取得から2年以内 ● TOEFL iBT 71点以上 (学部課程) 79点以上 (大学院課程) ● IELTS 6.0点以上 (学部課程) 6.5点以上 (大学院課程) ● 英検 準1級以上 ● Duolingo English Test 95点以上 (学部課程) 105点以上 (大学院課程)	

※英検は公益財団法人日本英語検定協会の「実用英語技能検定」です。

※「TOEIC」は「Listening」、「Reading」、「Speaking」、「Writing」の4技能のスコアが必要です。

「アメリカや同国と同じ教育システムの高等学校を卒業」あるいは「アメリカや同国と同じ教育システムの短期大学や4年制大学での就学経験者」は英語の資格が免除される場合があります。該当される方は、先ずは当就学実行委員会事務局までお尋ねください。

英語の資格について

TOEFL iBT Test of English as a foreign language, Internet-Based Testing の略

アメリカの非営利テスト開発機関”Educational Testing Service (ETS)”が開発した、母国語が英語以外の人の英語能力を判定するための試験で、英語圏(アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリア・ニュージーランドなど)の国の高等教育機関へ留学する際に必要とされる学術的(アカデミック)な英語の能力(「読む」「聞く」「話す」「書く」の4つの技能)を判定する基準として広く用いられています。

テストの形式	受験場所	試験時間	部門別時間配分	部門別スコア
TOEFL iBT テスト	テストセンター	約3時間	Reading (54～72分) Listening (41～57分) 休憩 (10分)	0～30 0～30
TOEFL iBT Home Edition	自宅		Speaking (17分) Writing (50分)	0～30 0～30

※「Reading」と「Listening」の問題数が毎回異なるため、時間配分に違いがあります。

- どちらのテストも同じ内容やフォーマットでコンピュータを使用したテストで、解答にはマウス操作やキーボードでのタイピングが必要です。
- テストの結果はスコアで示され、各部門のスコアは「0～30」で、総合スコアは「0～120」です。
- テストの有効期限はテスト日から2年間です。
- TOEFL iBTテストのテストセンターは九州・沖縄地区では福岡、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄にあります。
- 自宅受験のTOEFL iBT Home Editionはインターネットに接続したご自身のパソコンを使用しますが、使用する機器や受験環境の要件に決まりがあるのでTOEFLテスト日本事務局の自宅受験TOEFL iBTテストのページの使用機器と受験環境(https://www.toefl-ibt.jp/test_takers/at-home/1.html)でご確認ください。

テストに関する詳細や受験日の確認、受験申し込みはTOEFLテスト日本事務局(ETS Japan)の受験生向けのページ(https://www.toefl-ibt.jp/test_takers/index.html)で、通常版TOEFL iBTの試験会場はプロメトリックのホームページ(<http://www.prometric-jp.com/>)でご確認ください。

上記の2種類以外に、TOEFL iBTペーパー版テストがありますが、日本国内での実施は未定です。
こちらはペーパー版のReading、Listening、Writingをテストセンターで受験後、3日以内に自宅で自身のコンピュータを使用して試験監督者の監督の下、オンラインでSpeakingを受験します。

TOEFL ITP (Institutional Testing Program)テスト®

TOEFL テスト作成元であるETS が提供する団体向けTOEFL テストプログラム(模擬試験)で、過去にTOEFL PBTで出題された問題が再利用されているためスコアには公式な効力はありませんが、試験内容はTOEFL PBTに準じていて、高い相互関係があることから、中級から上級レベルの英語の能力をはかるのに適しており、国内外を問わず世界中の教育機関で受験者の学術的な英語力をはかるために利用されています。

試験は下記の「Level 1 - TOEFL(140 問)」と「Level 2 - Pre-TOEFL(95 問)」の2 種類がありますが、基地内大学応募の対象は「Level 1」の試験です。

テストの種類とスコアの範囲	総問題数／解答時間	セクション別の問題数／解答時間
Level 1 TOEFL 310-677	140問／約115分	Listening Comprehension 50問／約35分 Structure and Written Expression 40問／25分 Reading Comprehension 50問／55分

※入学準備コース(ブリッジ・プログラム)に限り、同テストのスコアで応募が可能で、正規入学コースには応募できません。

IELTS (アイエルツ)

International English Language Testing System の略

イギリスの University of Cambridge ESOL Examinations、ブリティッシュ・カウンシル、IDP Education Australia : IELTS Australia が共同で管理・運営する英語能力認定テスト。受験対象は16歳以上。(国内では公益財団法人日本英語検定協会が実施運営を行っています。)イギリス・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドでは広く利用されており、アメリカでも多くの教育機関が入学審査に利用しています。

大学・大学院の入学許可判断基準および英語圏での看護師や医師登録申請のための『Academic Module』と、高等学校・職業訓練プログラムおよびカナダ・オーストラリア・ニュージーランドへの移住申請者向けの『General Training Module』、英国ビザ申請用の『IELTS for UK Visas and Immigration (UKVI)』と『IELTS Life Skill』と全部で4種類がありますが、基地内大学への応募の対象は「Academic Module」のみです。

テストの種類とバンドスコア	技能別の問題数	解答時間
Academic Module／1.0～9.0	Writing 2問 (問1 150語以上／ 問2 250語以上)	60分
	Reading 40問	60分
	Listening 40問	30分
	Speaking	11～14分

- 結果は1.0～9.0までの「バンドスコア」で示され、各部門(パート)ごとの英語力のバンドスコアと、総合評価としてオーバーオール・バンド・スコアが与えられます。
- テストの有効期限はテスト日から2年間。
- コンピュータ受験のComputer-delivered IELTS (CD IELTS)は東京と大阪での実施で、九州地区は従来型の形式を福岡と熊本で受験できます。

詳細は公益財団法人日本英語検定協会のホームページ(<http://www.eiken.or.jp/ielts/index.html>)、または、ブリティッシュ・カウンシルのホームページ(<https://www.britishcouncil.jp/>)で確認できます。

英検 (実用英語技能検定)

公益財団法人日本英語検定協会が運営する文部科学省後援の試験。

- 学習レベルに応じて5級・4級・3級・準2級・2級・準1級・1級の7つの級が設定されています。
- 結果は合否で判定されます。

- 隣接する級は同日受験(ダブル受験)が可能です。
- 受験料や所要時間、試験開始の時間などは、試験の形式や受験する級により異なります。
- 3つの形式(「従来型」、「S-CBT」、「S-interview」)で実施されています。
 - ※「S-interview」の形式は「S-CBT」では受験が難しい、合理的配慮が必要な障がいのある方が対象で、それ以外の方はこの形式では受験できません。
- いずれの形式も指定された試験会場やテストセンター、団体単位で申し込まれた会場で実施されています。
- 1年間を、テストを実施する期間として下記の3つの「検定回」にグループ分けしています。

第1回検定	4月～7月	第2回検定	8月～11月	第3回検定	12月～3月
-------	-------	-------	--------	-------	--------

- 「S-CBT」は同一の検定回内で2回まで受験できますが、「従来型」と「S-interview」は1回だけの実施です。
- ⑨「従来型」と「S-CBT」は同じ検定回内で同じ級を併願受験できますが、「S-interview」はほかの試験形式との併願ができません。

例： 第1回検定の期間内に複数回受験する場合、

準1級を 「S-CBT」を4月と7月の合計2回受験－可

「S-CBT」を4月と5月と7月の合計3回受験－不可

「S-CBT」を4月と7月に、「従来型」を5月に受験の合計3回受験－可

試験形式での違い (L-Listening / R-Reading / W-Writing / S-Speaking)

試験形式	試験日数	試験形式	受験級	開催地
従来型	2日	1次試験 (筆記-LRW) 2次試験 (面接-S)	1級、準1級、 2級、準2級、 3級、4級、5級	各都道府県に複数の試験会場有 (団体での試験実施の申し込み可)
◆年3回実施。 ◆試験が1次試験 (筆記-リスニング、リーディング、ライティング) と2次試験 (面接-スピーキング) に分かれています ◆1次試験の筆記に合格した人だけが、後日、2次試験を面接官による面接 (対面式) で受験できます ※1次試験は本会場以外に準会場でも受験可能ですが、1級と準1級は本会場でのみ受験できます ※1級の2次試験は全国 11 都市の試験会場で実施 (九州・沖縄地区は福岡と沖縄)				
S-CBT	1日	コンピュータ使用 (SLRW)	準1級、2級、 準2級、3級	各都道府県のテストセンターで受験
◆試験日はグループ分けされた検定回の期間中に複数回設定されて、同じ検定回中に同じ級を2回まで受験できます ◆コンピュータを使用して1日で4技能を受験します ◆問題内容はPC画面上に表示されます ◆スピーキングはヘッドセットを装着し解答を録音する吹込み式です ◆リスニングはヘッドセットで音声を聞き、マウスで選択肢をクリックして解答します ◆リーディングはマウスで選択肢をクリックして解答します ◆ライティングは選択方式で、「筆記型：解答用紙に記述」または「タイピング型：キーボードを使って解答を入力」のどちらかを申し込みの際に選択 (解答方法の変更はできません) します ◆合否は「リスニング」「リーディング」「ライティング」の3技能の結果で一次試験の合否を、「スピーキング」の結果で二次試験の合否を判定し、一次試験と二次試験の両方に合格すると級認定 (合格)				

S-interview	2日	1次試験（筆記－LRW） 後日、全員が 2次試験（面接－S）を受験	1級、準1級、 2級、準2級、 3級	各都道府県に複数の試験会場有
<p>◆「S-CBT」方式では受験が難しい方や受験上の配慮が必要な方向けです</p> <p>◆「従来型」と同様に1次（筆記）と2次（面接）を2日に分けて実施されますが、従来型と違い、全員が2次を受験します</p> <p>◆合否は「リスニング」「リーディング」「ライティング」の3技能の結果で一次試験の合否を、「スピーキング」の結果で二次試験の合否を判定し、一次試験と二次試験の両方に合格すると級認定（合格）</p>				

【1次試験免除】

試験の結果が不合格でも下記の条件に当てはまる方は「1次試験免除資格」が付与され、次回から3回までの検定回に1次試験免除で受験の申し込みをすると、「従来型」なら1次試験は受験せずに2次試験「Speaking」を、「S-CBT」なら「Speaking」だけを受験することができ、「S-interview」の該当者が1次試験免除の申し込みをすると同形式の試験を2次試験「Speaking」から受験できます。

従来型	1次試験は合格したが、2次試験が不合格または試験を欠席の方
S-CBT方式	「Listening」「Reading」「Writing」3技能は合格基準スコア以上だが、「Speaking」が合格基準スコア未満の方
S-interview方式	1次試験の「Listening」「Reading」「Writing」3技能は合格基準スコア以上だが、2次試験の「Speaking」が合格基準スコア未満、または欠席した方

⑨1次試験免除の資格を取得した後にS-CBTの申し込み期間に間に合えば同一検定の期間内にS-CBTの1次試験免除申請をして「Speaking」だけをもう一度受験をすることが可能です。

Duolingo English Test (DET)

Duolingo(デュオリンゴ)とは、アメリカのカーネギーメロン大学の研究で始まった、英語を含めた多言語をインターネットに接続した情報端末で学習する言語学習プラットフォームです。無料の教育ウェブサイトやアプリのほかに、オンラインで受験する英語能力測定試験「Duolingo English Test」も提供しており、アメリカを中心に3,000校以上の教育機関で導入されています。

- インターネット環境の条件を満たしたパソコンがあり、それ以外の受験に必要な条件を満たしていれば、いつでも受験することができます。(ただし、1回受験すると次の受験までは30日開ける必要があります。)
- テストの所要時間は1時間。受験から48時間以内に試験結果が出て認定されます。
- テストの結果は10点から始まり、160点満点中の点数を5点刻みの採点で、総合スコアと、サブスコアとして「Literacy(読んで書く能力)」、「Conversation(読んで聞く能力)」、「Comprehension(聞いて話す能力)」、「Production(書いて話す能力)」の4つの能力が採点されますが、総合スコアを含めた5つのスコアは全て独立して採点されており、総合スコアの点数はサブスコアの平均点ではありません。

このテストについての詳細は、duolingo English Testのホームページ(<https://englishtest.duolingo.com/>)でご確認ください。

TOEIC

一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC) が運営する、英語コミュニケーション能力を評価する試験。この試験はTOEFLを実施しているアメリカの非営利テスト開発機関”Educational Testing Service (ETS)”が開発しています。

- テストの結果はスコアで表示され、Listening & Reading TestはListeningが5～495点、Readingが5～495点、トータル10～990点、SpeakingとWritingのスコアはそれぞれ0～200点です。
- 受験料や所要時間、試験開始の時間などは試験により異なります。

TOEIC - 個人でIIBCに受験申し込みをする / IIBCが準備する試験会場で受験

テストの種類	解答方法	試験時間	
Listening & Reading Test	マークシート方式	2時間	10～990点（5点刻み）
Speaking & Writing Test	パソコンとヘッドセット使用	1時間20分 (S 20分/W 60分)	S - 0～200点（10点刻み） W - 0～200点（10点刻み）
Speaking Test	パソコンとヘッドセット使用	20分	0～200点（10点刻み）

メリーランド大学では入学準備コース(ブリッジ・プログラム)に限り、「Listening & Reading Test」と「Speaking & Writing Test」の両方のテストで4技能の条件を満たすスコアで応募できます。

※応募資格の対象は上記の3つのテストの結果であり、それ以外の「TOEIC Bridge® Listening & Reading Tests」、「TOEIC Bridge® Speaking & Writing Tests」や、団体受験の「TOEIC® Program IP (Institutional Program) テスト」で受験をされたスコアでは応募できません。

7. 大学内での進学や他大学への編入について

メリーランド大学内での進学について

同大学内でプログラムや学位を取得した後に次の段階に進学する場合は下記のとおり。

メリーランド大学で 取得した学位など	同大学内での進学先	英語の資格の 再提出	その他の条件
ブリッジ・プログラム修了 (入学準備コース)	準学士・学士	不要	なし
	第2準学士・第2学士※	不要	第2準学士は準学士を、第2 学士は学士を取得済み または取得予定
	修士	必要	学士を取得済み
準学士	学士	不要	なし
学士	修士	不要	なし

※第2準学士・第2学士とは、メリーランド大学以外で準学士や学士を取得した方が対象の制度です

メリーランド大学以外の大学(日本国内外を問わず)での学士号の取得者が、メリーランド大学の修士課程に進む場合は、英語の資格証明書と卒業大学の成績表を提出して大学院課程(修士)への入学審査を受けることができます。入学審査などの詳細は、メリーランド大学の担当者にお問い合わせください。

※学位をアメリカ以外の国・地域の高等教育機関で取得したのであれば、成績表は大学指定のアメリカの成績審査機関でアメリカの評価基準に合わせて評価替え(有料)をしてから提出します。

【第2準学士(Second Associate's Degree)・第2学士(Second Bachelor's Degree)制度】

メリーランド大学以外で学部課程(準学士・学士)の学位取得者を対象とした制度です。

この制度を利用すると、他の大学で取得した単位をメリーランド大学の単位として組み込むことができ、同大学で専攻する学科の専門の講座を受講することで2つ目の学位を取得できます。

準学士・学士取得済 (他大学などを既卒の場合)	就学手続きの際に、申し込みの手続きをします。 ※ただし、ブリッジ・プログラムへの就学者は、1年間のプログラムを修了した後に履修をします。
準学士・学士取得前 (他大学に在学中の場合)	準学士・学士取得後でなければこの制度が利用できないため、次のようになります。 ①他の教育機関を卒業(=準学士・学士取得)するまでの期間は、編入の手続きはしないまま聴講生(Non-Degree Seeking)として講座を受講 ②他の教育機関を卒業後、この制度への申し込みと編入の手続きをする ※聴講生として受講した講座の単位は編入手続き後にメリーランド大学で学位取得する際の単位として組み込みます。

※メリーランド大学以外で専攻したものと同一とみなされる学科は選択できないため、第2準学士・第2学士では異なる専攻学科を選ぶことになります。

この制度のご利用をお考えの方は、まずは同大学の Academic Advisor へご相談ください。

※第2学士については下記のリンク先でご確認ください。(英語)

<https://asia.umgc.edu/academic-programs/bachelors-degrees/second-bachelors.cfm>

アメリカやその以外の国や地域の大学への編入について

アメリカのメリーランド州の"University System of Maryland (USM)"に加盟する高等教育機関には比較的簡単に取得済みの単位が移せますが、アメリカの別の地域の大学への編入や、同システムに加盟する大学でも編入先で専攻を変えるときは、取得済みの単位の一部が移せない場合があります。

また、編入希望先がアメリカと教育システムが異なる国や地域であれば、取得済みの単位が移せない場合がありますので、単位の移行や編入のための条件などはご自身で編入先大学に問い合わせてください。

※編入先が日本以外の国や地域であれば、就学の際に必要な学生ビザなどの申請の手配も必要になります。

米海軍佐世保基地内大学への就学に関する質問は『米海軍佐世保基地内大学就学実行委員会事務局』までお問い合わせください。

〒857-8585 長崎県佐世保市八幡町1番10号 佐世保市文化国際課内

電話：0956-24-1111（内線：3266）

E-mail: bunkak@city.sasebo.lg.jp（佐世保市文化国際課メールアドレス）

【電話による問い合わせ受付時間：8：30～17：15（土日祝日を除く）】

※メールでの問い合わせでは、メールの件名に「基地内大学情報提供希望」と記入、本文には①「氏名（漢字・ローマ字）」、②「住所」、③「就学を希望しているコース」、④「取得済みの英語の資格と取得年、または今後取得を予定している英語の資格」をご記入ください。

⑨当事務局からのお知らせメールが受信できるようにメールのアプリやセキュリティの設定を変更してください。

更新：2022年4月1日